

# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 町指定史跡 かぶと塚古墳石室

今から1700年前の古墳時代。日本列島では、大きな政治力を持った有力者たちが、その力を背景に大きなお墓(古墳)を作りました。これらの古墳は前方後円墳や前方後方墳・円墳・方墳などの種類があり、形や規模は、亡くなった有力者が、生前に持っていた権威を示すものでした。時代が下って古墳時代の後期(6〜7世紀)になると、古墳の大きさが急に小さくなるとともに、たくさんの古墳がまとまってつくられる群集墳が出現しました。これは、農業技術の発展に伴い、有力な農民達が力を強めていった結果、古墳を作ることが可能になったと考えられます。実は上三川町は周辺地域の中でも非常に古墳が密集している場所なのですが、その古墳のほとんどが古墳時代後期に作られたものなのです。

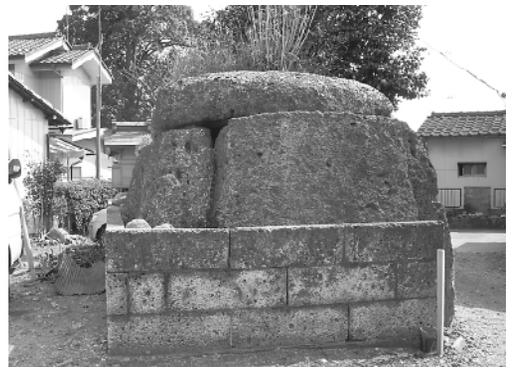
その古墳時代後期の古墳の、死者を安置するための施設である、石室の構造を今に伝えるものの一つが、大字上三川地内にある、町指定文化財かぶと塚古墳石室なのです。かぶと塚古墳は、明治13(1880)年に発掘され、その際に土器や勾玉などが出土したと伝わっています。その形は円墳と考えられ、その後の道路工事の土取りなどで土が取られてしまい、現在では、非常に大きな石で組み立てられた、横穴式石室が露出しています。この石室に使われている石の大きさは、外側の壁のものが長さ3.7m・高さ2m、北側にある奥壁のものが幅2m・高さ2m、天井部分には長さ2.5m・幅1.8mの石が2つ置かれており、栃木県内でも屈指の規模を誇ります。このように巨大な石室が露出した状態は、皆さんもご

存知の奈良県の石舞台古墳のようです。

かぶと塚古墳の石室に使われている大きな石は、大谷石と同じ凝灰岩です。今と違い、便利な機械がなかった当時、何百kgもある大きな石を人の力で削りだし、ソリなどに載せて川まで運び、船に乗せて遠く上三川の地まで運んだのでしよう。当然クレーンもありませんから、人々の力だけで組み立てていったのです。これらの作業は多くの人々の力が必要になりますから、当時この地に、大きな力を持った権力者がいたことが分かるのです。

大きく立派なお墓を作りたいと思うのは、今も昔の人々も一緒なのでしょう。自分そして一族の繁栄と権力を示す、大きな石室の中で、棺に納められた当時の権力者は、何を思い永久の眠りについたのでしょうか。

古墳時代					弥生時代			時代						
6世紀					5世紀	4世紀	3世紀		西暦					
593	589	588	562	538	527	478	391	248		247	239			
聖徳太子が摂政となる。 隋、中国を統一。 飛鳥寺が建立される。 任那において日本府が減じる。 百濟より仏教が伝来する。 筑紫磐井の乱が勃発する。					※このころ後志部古墳群・狐塚古墳(上神主)、坂上古墳群(坂上)、瓢箪塚古墳・愛宕神社古墳(上郷)、高麗神社古墳(西木代)、愛宕塚古墳(上三川)が造られる。 ※このころかぶと塚古墳(上三川)が造られる。 ※このころ摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳(小山市)が造られる。 ※このころ倭王武、宋に使者を送り、安東將軍倭国王の称号を授かる。 ※このころ浅間神社古墳(上神主)が造られる。 ※このころ後円墳が築造される。 ※このころ笹塚古墳・塚山古墳(宇都宮市)などの大型の前方後円墳が築造される。					卑弥呼、洛陽に使者を送る。 親魏倭王の称号金印紫綬・鏡・刀剣などを賜る。 卑弥呼、狗奴国王と戦う。 卑弥呼が亡くなり、志与が即位する。 ※このころ古墳が全国的に造られるようになる。 倭、百濟・新羅を破り、高句麗とも戦う。				



かぶと塚古墳石室奥壁



かぶと塚古墳石室のようす